

「中日友好」を壊す 「反日教育」

中国人の若者が「思いっきり日本人をぶち殺してやりたい」という妄想をインターネットに書き込みしている。

どこの国にも「おかしい人間はいるものだ」などと軽々しく考えてはいけぬ。

彼らは『南京大虐殺』の仇を『東京大虐殺』で果たそうというのだ。

日本人にとっては『南京大虐殺』など「いわれのない濡れ衣」だが、反日教育を70年も続けていると「ウソも本当のことだ」と脳裏に刻み込まれる。

共産党のでっち上げたウソでも何十年と注入されつづけられれば洗脳されるのも仕方がない。

これこそが中国政府の「反日教育」の賜物。

こんな中国人と正常に付き合えるのか？



とてもじゃないがお付き合いはお断りしたい。

「敵に塩を送り続ける日本」という国家の「お人よし」ぶりには失望する。

日本の役人が躊躇することなく中国に出しているお金は日本国民の税金なのだ。

「尖閣諸島」や「沖縄本島」も「中国のもの」と強引な主張を展開する中国は、共産党政府だけが悪いのではない、中国国民も悪いのだ。それは自分の頭で考えないからで決して「中国人は頭が悪い」と言っているのではない。

共産党政府のウソに気が付かないのだ。

【ウソその1】共産党の幹部たちは「大東亜戦争で日本軍と戦って中国国民を日本から守った」などの「大ウソ」を平気で言う。

だから当時の幹部の子弟が国政を「世襲するのは当然だ」と主張したいのだ。

中国の人間の頭の中に脳みそがあるなら「中国という国ができたのは1949年」であり、どんな魔法を使っても「日本と中国」は「戦争できない」ことくらいはわかるだろう。

日本軍が大東亜戦争を始めたのは1941年。

アメリカ軍が広島市へ原子爆弾を投下したのは、第二次世界大戦末期1945年8月6日午前8時15分。

アメリカ軍は核爆弾を日本の広島市に「リトルボーイ」(ウラン型)を実戦使用。次に「ファットマン」(プルトニウム型)を長崎に投下した。

1945年8月15日に天皇陛下からの玉音放送で日本はアメリカ軍に無条件降伏した、ことを知る。

日本は1945年に正式に『降伏文書』に調印して敗戦を認めている。

つまり、中国という国が産声を上げる4年も前に日本は戦争を止めている。アメリカ軍に敗けたのだ。



だから、毛沢東の人民解放軍(八路軍)はどう逆立ちしても日本軍とは戦争できない。

共産党の幹部たちの「大東亜戦争で日本軍と戦って中国国民を日本から守った」というのはウソもウソ、大嘘だ。

日本軍が戦ったのは 南京にいた蒋介石の国民党軍

確かに日本軍は「南京に本拠地を置いて蒋介石の国民党軍」と戦争をした。

そのころの「毛沢東と八路軍」は地方都市近くの山中でお仲間の山賊・匪賊と一緒に隠れ潜み、知らんふりを決め込んでいた。

いくら日本軍が強くとも相手が山の中に逃げ込んだままでは戦争のしようがない。

蒋介石の国民党軍はというのは日本軍が攻め込むと「まず逃げる」、逃げて、逃げて、追いかける日本軍が深追いせずに本隊に戻り始めると、はるか遠くにぱっと白煙が立つとパーンと音がして足元にコロコロと弾丸がころがってくる程度だった、という。

「蒋介石の国民党軍」は強い日本軍と戦って戦力を消耗していた。それを見計らって八路軍改め「毛沢東の人民解放軍」が「蒋介石の国民党軍」に内戦を仕掛ける。日本軍と戦うときにはアメリカから武器弾薬、軍事物資を提供されていたが、日本

が無条件降伏した後の「毛沢東の人民解放軍」と「蒋介石の国民党軍」の内戦にはアメリカは関与していない。

「蒋介石の国民党軍」は台湾に逃げ込み、中国全土を「毛沢東の人民解放軍」に渡した。

つまり、日本軍が連合国に降伏した1945年までは「蒋介石の国民党軍」が日本の相手。

だから当然「毛沢東の人民解放軍」との戦争ではない。

実際に日本軍と「毛沢東の人民解放軍」は戦っていないのだ。

その4年後の1949年に『中華人民共和国』がようやく建国するのだから、日本軍と毛沢東の人民解放軍が戦闘するわけがない。

『南京大虐殺』の超大なウソ

当時の南京は世界中から新聞記者やカメラマンが大勢駐在していた。



1949年10月1日建国宣言を朗読する毛沢東

その誰一人も南京で日本軍の大虐殺があった、と報道している者はいない。

当時の南京は人口20万人だったという。にもかかわらず、日本軍が南京大虐殺で殺した人数は30万人だという。

20万人しか人口がないところでどうやって30万人も殺せるのか？

この「手品の種明かし」を中国共産党のトップに是非ともしてもらいたいものだ。

本来、人間の死体は強烈な腐敗臭を放つ。その鼻も曲がるような悪臭をどうしたのだろうか。ドライアイスで冷やして腐敗しないようにしたのだろうか？キムコのジャイアントを使ったのか？普通の場合は土に穴を掘って埋めるか、火葬にする。そんなに都合よく穴を掘って埋める場所があったのか？

バーベキューやこんがり燃やせる窯があったのか？

一人二人ではない。大虐殺である。30万人の死体をどうやって処理したのだろうか？まさか、中国人のように南京を



南京大虐殺？

解体工場化して「塩漬け」にしたり、煙であぶって「燻製」にして兵士の食糧用に加工したのか？

しかし、日本人には中国人のように「人殺しを楽しんだり」、「人肉レストランで舌鼓を打つ」習慣はない。

毛沢東の「大躍進政策」の失策で 数千万人の中国人が餓死。

中国の毛沢東主席が1957年11月にソ連を訪問。どちらが共産主義のリーダーにふさわしいか？ 共産党トップ対談に臨んだ。

ソ連のフルシヨフ首相と張り合った中国の毛沢東首席は「鉄鋼」生産でこれから「イギリスを抜く」と大言壮語する。当時、中国の国民の90%は農民。

この農民を「鉄鋼大生産」に専念させるためには、まず食糧生産量の大幅増加



毛沢東の「大躍進政策」により
農家の庭に造られた炉



福建省にある製鋼炉の遺跡。現存する「大躍進」の遺跡としては貴重である

を計る必要がある。農民が1年間農業をやらなくても全国民が食うに困らない食糧を確保すれば農民は「鉄鋼生産」に全力を出せる。

毛沢東は「食糧」生産倍増計画と高すぎる数値目標を掲げ「大躍進運動」を指導する。

ソ連のフルシヨフ首相は「ソ連は今後15年でアメリカを追い越す」とスローガンを挙げる。

「鉄鋼生産」のためには 「食糧生産倍増」

毛沢東はまず、「食糧生産」を倍増せよ！と大号令。

「毛沢東に倍の収量になれ！」と言われたからといって「農作物には農作物の都合がある」。おいそれと2倍にはなれない。しかし、そんなことに毛沢東はお構いなし！！

年間2.5億トンの生産高をいきなり5億トンにしろ、というのだ。

「食糧生産を倍増」できなければ人民公社の幹部が処分されかねない。

そこで人民公社の幹部たちは数字を水増しし

て1958年秋「倍増できました」とウソをいうことにした。

毛沢東は「帝王」だから、自分が命令すれば全てそのとおりになる、とっている。

「食料が倍増できた」と思っている毛沢東主席は各人民公社に「2倍量の食糧を供出しろ」との命令をだす。

ところが実際には食糧は倍増していないから「2倍供出する」と農民が食べる分がなくなる。しかし、人民公社の幹部達は毛沢東に「できません」といえばどんな処分をされるかわからない。恐くて本当のことが言えない。

そこに追い打ちのように毛沢東から能天気にも「食糧はもういいから鉄鋼の生産に全力を注げ!」と命令がくる。

全国の人民公社に全農民を動員して《「鉄鋼大生産運動」に全力を挙げよ!!》との命令である。

食糧不足で餓死者続々。

春に農民が鉄鋼生産に取られると田植えができない。農民の食糧が欠乏するのはわかっている。

人民公社の幹部としては「本当のことを言えば毛沢東の怒りをかう。殺される」。この際は黙っているしかない。

さて、当時の中国の鉄鋼生産量は年間1000万トン。

それをたった1年間で「目標は年間2億7000万トン」へ。1年間で27倍にするという数値目標だ。

農民が「鉄鋼生産」に専念している間に夏頃から飢饉が起こり始めた。

前年の「食糧増産倍増」の水増し報告のウソのせいで「2倍量の食料供出」の影響がでる。農民たちの食料は底をつき「鉄鋼大生産」に労働力をとられているので穀物生産は大ピンチ。飢饉は各農村にひろがり、大飢饉となる。

河南省の信陽地区では人口の5～20%が餓死。安徽省では300万人～500万人が餓死。

「一家・一村全滅、食人事件、食糧暴動、流血の弾圧」中国農村の状況は生き地獄の様相を呈した。

河南省信陽地区のある小学校の教師は「1959年の夏から、農民たちの食糧不足が深刻な事態となってきた。

最初のご飯をお粥に切りかえた。そのお粥もだんだん薄くなって鍋いっぱいのお湯に米粒20粒、30粒になりさらに1か月たつと村から炊煙が消えた。

村人は気が狂ったように食べ物を探し口に入るものは何でも食べた。もみ殻も糠も稲わらもトウモロコシの莖も枝豆の殻まで食べてしまって胃が痛んだ。

村人は一斉に里山に入り、木や草の根を掘り起こし食べた。中毒死する人、

消化できず、排便できず、そのまま死んでしまう人も多かった。

そのうち、あちこちの家に餓死者が出始めた。最初は家族が村の裏の墓地に穴を掘って埋めていた。生きている人もだんだん体力がなくなり、屍骸は墓地周辺の雑木林にそのまま捨てられた。

やがて、人が人を食う惨劇が起きた。最初は餓死した人の屍骸が対象となった。

人の屍骸を雑木林に捨てると、お尻や太ももなど肉の付いている部分がすぐさま誰かに切り取られて持ち去られた。

そしていよいよ村の子供たちが殺され食べられてゆく。さすがに自分の子供を食べる親はいない。村人たちは互いに相談して、子供を交換して食べることにした。同じ村の中でも家の場所が離れた家庭間で交換された。

餓死した子供は同じ年頃の同じくらいの大きさの子供の死体と。生きている子供は同じ年頃の生きた子供と交換する、という暗黙のルールが出来上がっていた。

夜明け前に各家の父親は自分の子供の死体や栄養失調で昏睡状態の子供を抱いてよその家に行き、同等の交換物を持って帰る。それから、台所で他人の子供を解体する。

頭から脳みそを取り出し、胸と腹を切り開き、内臓は全部取っておく。

子供はすでに長い間、食べ物を摂取していないから、胃袋や腸など内臓部分はいたって「きれい」であったという。

最後は体全体からとれるだけの人肉と脂肪をきれいに切り取っていく。

解体作業が終わると、子供の脳みそから作ったスープが朝食になり、内臓から肉へと煮物にしたり、炒め物にして大切に食べていく。

一人の子供をもらうと家族全員何とか1週間凌げるから、子供の多い家庭ほど大人の餓死者が少なかったようです・・・。

1959年から3年間で数千万人の中国人が「飢餓地獄」の中で死んでいった。なぜこのような状態となるのだろうか？

今年(2018年)だから1959年といえばたった59年前の出来事だ。中華人民共和国が生まれたのが1949年。結論を言えば「毛沢東国家主席」は殺人狂である。

日本で最も中国について詳しい男「石平」氏の著書で、「なぜ中国人はこんなに残酷になれるのか」(中国大虐殺史)を何度か読んでみると絶対的権力を一人の人間に持たせることがどれほどいけないことか、がよくわかる。

いろんな手続きがあって面倒だ、と思うことがあるけれど民主主義は素晴らしい。